

志望校について考えよう

最初の中間テストが終わり、はぐま祭にむけてだんだん雰囲気が高まってくる時期ですね。一方で、いよいよ勉強も深まってくる時期です。はぐま祭代休の6月10日(月)には、3年生のマーク模試(+11日(火))、2年生希望者の駿台模試があります。また、6月2日(日)には英検を受験する人もいます。高校生活はもりだくさんですが、計画的に過ごしていきましょう。

3年生のマーク模試では、受験カードの志望校も、現実味が増してきます。第一志望ははっきり決まっていますが、第二志望から先をどうしようかと迷っている人は多いと思います。2年生も面接週間・テストを経て、そろそろ方向を決めていく時期ですし、1年生は**文理選択**について考えていかなければなりません。どれもこれも締切はまだ先ですが、ぎりぎりになって慌ててしまい、決めたあとで、もう少し考えておけばよかった、ということのないようにしたいものです。

学年ごとに細かい中身は違いますが、どれも軸になる問題は、**志望校をどうするか**、ということですね。自分の学力であったり、好き／嫌い、得意／不得意だけでなく、様々な視点で考えていきましょう。

※以下、実は去年とほとんど同じ内容ですが、やっぱり重要なので、きちんと伝えます。

大学で何を勉強するのか

まず、忘れてはならないのが、大学は勉強するところだ、ということです。もちろん、とれる「資格」も大事です。教員免許や、看護師、薬剤師、建築士など資格が必要な職業を目指すのであれば、資格が最優先ですね。ですが、資格だけが大学ではありません。やはり「学問」については真剣に考えた方がいいと思います。目先の資格や就職も気になりますが、やはり最低でも4年間勉強するところです。自分の興味や関心とのマッチングが出来た方が、よりよい大学生活を送れるでしょう。

以下、志望校選びで質問されがちなポイントを挙げてみました。あくまでも1つの見方ですので、いろんな資料を見たり、先生・先輩・親御さんなどに相談するなどしましょう。**大学のHPなどで、卒業論文・卒業研究のテーマを探してみるのもよい**と思います。また、2年生は9月にあるミニ大学も参考になると思います。

文理選択の考え方(1年生向け):例えば自動車を題材としてみましょう。「**理系は自動車をつくる**」、「**文系は自動車を売る**」という役割だと考えてみてください。自分はどちら側(自動車に限りませんが)に興味があるのかをイメージしてみると、大きな方向性が見えてくると思います。

学部のイメージ:

理学部と工学部:理学部は「仕組み」を学ぶ、工学部は仕組みの「使い方」を学ぶ。工学部は人間が使うものを扱う学問なので、理系の中でも文系的な学問だという話を聞いたことがあります。

法学部は論理的思考を必要とするので、文系の中でも理系的だと言われます。また、司法試験を受けるかどうか重要。

経済学と経営学:経済学は社会全体のお金の流れを学ぶ、経営学は企業のお金やサービスの動きを学ぶ。

語学(言語学)と文学:語学は、言葉そのものを学ぶ、文学は言葉がどう使われるかを学ぶ。

経済学や心理学は、文系学部だけど数学的思考が必要。特に統計は必須。

どういう就職をしたいのか

大学のパンフレットやHPには就職先が掲載されているので、参考にはなります。気を付けなければならないのは、「そこに就職した人がいる」のは事実ですが、「必ずそこに就職できる」わけではないということです。学生数が多い大学であれば、そりゃ誰かは一流企業に就職できるけど、**それ以外の人もたくさんいる**わけです。いい例えではないですが、磐南から毎年難関大に合格する人はいますが、磐南に入学したからといって難関大に入れるという話ではないとの一緒。もちろん、卒業生が多い大学は、OBOGがたくさんいるということでもあるので、つながりが生きることもあるでしょう。ですが、小さい大学でも就職先に恵まれている大学もあります。また、特に理系の大学だと、教授と企業とのつながりがあり、そこに就職という話もよくあります。もちろん、研究内容が合致していることが大事ですね。

ちなみに、国公立大学の方が公務員に合格しやすいと言われます。その理由の1つは、公務員試験の内容自体、文理幅広く出題されるので、大学入試への取り組みがそのまま公務員試験にも生かされるからだ、ということが言えるでしょう。

教育学部・教員免許について

磐南では、学校の先生になりたいという人は一定数います。当然、「教育学部」志望になるのですが、そういう人で、ちょっとだけ気を付けておいてほしいポイントがあります。それは、「教育学部」には、大きく「教員養成」と「教育学」という2つのコースがある、ということです。「教員養成」は教員免許を取得することを目的とするコース、「教育学」は、「学習とは何か」や「学習方法／学習心理学」（＝みなさんご存じエビングハウスの忘却曲線とか）を学んだり、「教育行政」（＝学校の仕組みとか）を学んだりするコースです。実は、いわゆる旧帝大の教育学部は、「教育学」がメインとなるところがほとんどなので、教員免許そのものがとれないところもあります。

例えば、静岡大学の教育学部は、「教員養成」の教育学部がメインなので、小学校・中学校・高校の教員免許がとれます。一方、名古屋大学の教育学部は「教育学」がメインなので、小学校の教員免許は取得できません。中学や高校の国語も英語の免許もとれません。名古屋大学の教育学部では、中学校社会科・高等学校地歴・公民と情報の免許しかとれないのです（「教育学」は社会科学の一分野。「教育心理」関係はデータ分析なので「情報学」の勉強もする）。オープンキャンパスや、大学説明会に行くなら、こういうところも聞きましょう。ちなみに、愛知県の国立教員養成大学なら愛知教育大学になりますね。

なお、小学校の教員を目指すのであれば、「教員養成の教育学部」を選びましょう。他方、中学校・高校の教員免許は、多くの大学で、専門の学部の授業プラス教職課程の授業をとることによって取得できるところも多いです。本校でも、理学部で数学・理科の先生や、文学部で国語の先生、外国語学部で英語の先生は多いです。何学部出身か、ご本人に聞いてみるというでしょう。なお、中学校の教員へのこだわりが強ければ、「教育学部」の方がおすすめです。制度的には可能でも、高校に比べ、中学校の免許の方が、要件が多いので、高校の免許は取りやすく、中学校の免許は取りにくい、ということはよくあります。

最近は教員の人気が下がり気味という報道も多いですが、待遇改善の動きはあります（そうってほしい(涙)）。教員を目指すのもよし、教育学を学んで、教育行政に携わり、教員の待遇改善に関わってくれるのもまたよし、だと思います。

【間違い】理系から文転できる？（1年生向け／2・3年生も確認）

1年生はそろそろ文理選択を考えている時期だと思います。静岡県という土地柄もあり、「とりあえず理系を選んでおこう」、「理系だったら、文転もできる」と思っている人も少なからずいます。もちろん、これまでも毎年理系クラスから文系の大学に進学した人はいます。ですが、今の段階で文転を考えての理系選択は全くお勧めしません。確かに、絶対に無理だ、ということはありませんが、新課程になり入試科目構成が大きく変わったことにより、理系から一定レベル以上の国公立大学への文転をすることが大変になりました。ですので、進路のしおりや、ネットに上がっている先輩たちの文転ストーリーはあてになりません。理系を選ぶ以上、理系を貫くことを前提にしましょう、ということです。（もちろん、浪人して文転する、という道もあります）

【間違い】文系大学は入りやすい？文系の方がレベルが低い？

単に文系・理系という考え方だけでなく、国公立と私立の比較もしてみると面白いと思います。大学全体の入学生だけを見ると、文系<人文科学（文学・語学など）・社会科学（経済学・法学など）>は約50%、その中では経済学部・経営学部を中心とした社会科学が一番多くなります。ですが、下のグラフを見てください。国公立大学だけを取り出してみると、文系の割合はかなり低く（26%）、工学部が一番多いのです。こういうデータから、かなり強引にいうと、「私立大学の文系学部は人数が多く、入りやすい」かもしれないが、「国公立大学の文系学部はそれなりに狭き門だ」ということです。私立も含めると文系の大学の幅はかなり広く、玉石混交といわれても仕方ないですが、国公立文系に限れば一定のレベルが担保されていると言えます。

もちろん、全体の人数だけでなく、各大学の個性・特徴も重要です。そのあたりについては次号に続きます。

